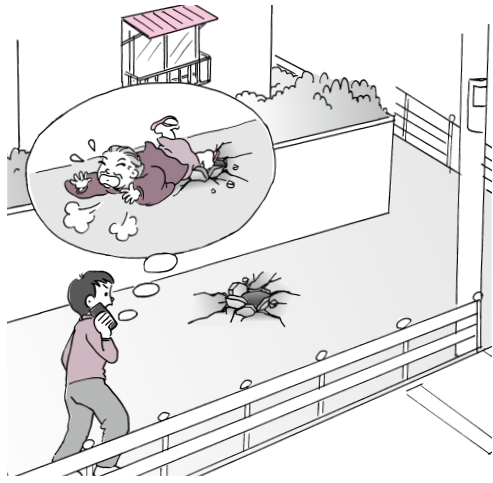


市民との協働で
インフラ管理を進める考えは通報制度等を導入することで
推進していきたい

須山 卓知議員(市フオ) 本市では、インフラマネジメントの老朽化対策について、他市に先駆けた取組を行っていると思うが、市民との協働でインフラ管理を進めていく考えはないか。



市長 市民にインフラの不具合などの情報を提供していただく通報制度や登録した市民や団体が道路等の管理を行うアドプト制度など、新しい管理手法を積極的に導入することで、市民との協働によるインフラ管理を推進していきたいと考えている。

議員 通報制度の具体的な内容を聞きたい。

都市整備部長 あらかじめ登録を行った市民や企業の自動車運転手などに協力をお願いし、市の管理するインフラの不具合を発見した際

事業者との協働により
再生可能エネルギーの利用を
促進する考えは企業の先進的な知識等を活用し
更なる促進に努めていきたい

施策を推進していく上で重要な協働のパートナーになるものと認識しており、今後、企業の先進的な知識、技術、経験などを活用させていただく中で、再生可能エネルギーの更なる利用促進に努めていきたいと考えている。

議員 市施設における発電見込み量などの基礎的データ収集や屋根貸しの検討を行い、再生可能エネルギー活用推進計画・方針(仮称)を策定する考えはないか。

環境安全部長 基礎的調査とあわせて屋根貸しの活用も検討し、具体的な目標を定めた推進方を策定する必要があると考えている。

市長 市内の企業は、本市が協働の具体的展開について

にいち早く通報していただくことを考えている。市民からの随時の通報と異なると通報者の役割が明確であり、多くの視点から監視することで不具合を早期に発見できる可能性があると考えている。

障がい者や女性を
市防災会議に加える考えは幅広い視点でご意見を
いただける方を
選定していきたい

赤野 秀二議員(共産) 被害想定を見直した新たな都地域防災計画が発表され、市地域防災計画の見直しも本格化していくと思うが、現在の状況を聞きたい。

議員 市民の命と財産を守るという点から、素案の段階で公表を行い、意見を求める機会を設ける考えは。

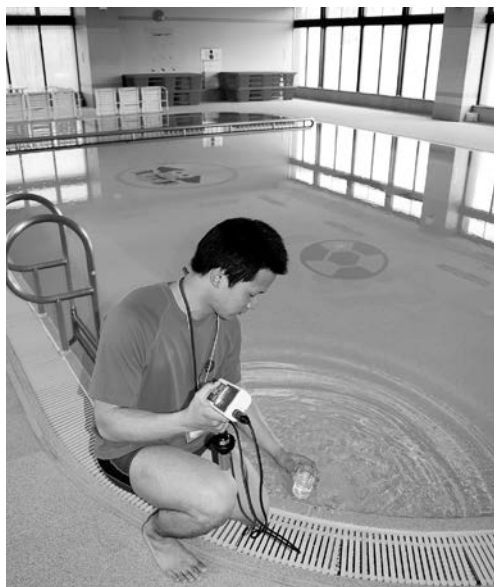
また、障がい者や女性を同会議に加える考えはないか。

プールの水質を
維持するための取組は
ろ過機の逆洗浄や残留塩素濃度の
測定等を行っている

桑島 耕太郎議員(志高) 学校教育における水泳の指導方針を聞きたい。

教育長 水に慣れ親しむことから具体的な泳法を身に付け、効率的に泳ぐ段階までの一連の学習を通して、子どもたちが安全に留意しながら互いに協力して学習を進めることで、水泳を楽しむことができるよう指導を行っている。

議員 市では細心の注意を払ってプールの水質管理を行っていると思うが、水質を維持するためにどのような対応をしているか。



▲プールの水質検査

公共施設マネジメントにおける
施設使用料の見直し
現行の基準の何が問題か基準使用料の考え方や
無料で使用できる施設の在り方が
検討すべき項目となっている

目黒 重夫議員(共産) 公共施設マネジメントの取組において、従来の施設管理の方法の見直しが迫られている最大の理由は何か。

市長 今後の財政見直しにおいて、公共施設の維持及び更新に係る費用の増大が見込まれるため、本市の安定と飛躍のために、財政への影響などを考慮すると直ちに取組んでいかねばならない課題であるということが最大の理由である。

議員 公共施設マネジメントというものは施設の量や機能の問題であり使用料の見直しについては議論から外すべきと思うが、現行基準の何が問題か。

議員 水質検査は外部業者に委託しており、結果を保健所に報告している。

更に、国が推奨する水道法による水質基準検査も実施している。

いじめを未然に防止するため
生徒による主体的な
取組を行う考えはグループワークの取組など
導入も研究していきたい

田村 智恵美議員(ネット) いじめを未然に防止するため、生徒がグループを編成し、同じ立場でサポートし合い、企画立案や情報発信などを主体的に行う「スクール・バディ」という藤沢市のNPO団体が開発した取組がある。

市長 市内の企業は、本市が協働の具体的展開について

検討の中では、基準使用料の考え方に検討すべき課題があるとされており、基準使用料を算出する際に計上する費用の考え方、社会状況などを踏まえた無料で使用できる施設の在り方といった点などが検討すべき項目として挙げられている。



▲施設利用券販売所(郷土の森総合体育館)

する方法や自己肯定感の大切さを伝える効果があるのとことだが、本市でもこのような取組を行う考えはあるか。

教育部長 本市では、第四中学校が集団づくり等に係る研究協力校として、生徒がグループワークで本音を表現し、認め合う体験を通して自分や他者への気づきを深める取組等を行っており、スクール・バディの取組の導入も含め、研究していきたいと考えている。

議員 第四中学校で行われた取組の効果と活用への考えは。

教育部長 生徒に対し、人と共に生きる喜びや勇気をもたらすなどの効果があり、研究成果については、教員研修等で活用していきたいと考えている。